

---

---

## 令和5年度 第2回練馬区子ども・子育て会議議事録

---

---

[日 時]

令和5年10月19日(木)午後6時30分から午後8時まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎5階庁議室

[出席者]

小島委員、清水委員、瀬川委員、ティアコジュイモ委員、檜垣委員、鈴木委員、桑田委員、重松委員、田中委員、土田委員、尾形委員、有村委員、小櫃委員

(事務局)

こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、学務課長、健康推進課長、豊玉保健相談所長

[欠席者]

小池委員

[傍聴者]

0名

[次第]

1 開会

2 議題

- (1) 第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況(令和4年度)について
- (2) 第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画(令和7~11年度)策定に向けたニーズ調査の実施について
- (3) 意見交換

【テーマ：妊娠・出産期～在宅子育て期の子どもと子育て家庭に大切と思うこと】

3 区からの連絡事項

- 【会 長】 令和5年度第2回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。  
事務局より、委員の出席状況の報告と配付資料の確認を行います。
- 【事務局】 委員の出席状況についてです。本日の出席者は、委員14名中、13名です。委員の過半数が出席しておりますので、練馬区子ども・子育て会議条例第6条第2項により、会議は有効に成立をしております。  
また、本年10月に1名の委員より辞任の申出があり、受理したことをご報告いたします。  
次に、本日の配付資料の確認を行います。  
(配布資料確認)
- 【会 長】 前回欠席された3名の委員に、委嘱状を机上配付しております。3名の委員に自己紹介をお願いしたいと思います。  
(各委員自己紹介)
- 【会 長】 それでは、次第2の議題に入ります。議題は3点です。  
議題1「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況(令和4年度)について」です。資料1が出ております。事務局より説明をお願いします。
- 【事務局】 (資料1について説明)
- 【会 長】 ご意見、ご質問はありますか。  
続いて、議題2「第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画(令和7～11年度)策定に向けたニーズ調査の実施について」です。資料2が出ております。事務局より説明をお願いいたします。
- 【事務局】 (資料2について説明)
- 【会 長】 ご意見、ご質問はありますか。特になければ、先に進めたいと思います。  
続いて、議題3「意見交換」です。前は「安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できるように大切と思うこと」をテーマに意見交換を行いました。委員の皆様からは、保育サービス水準の向上や子育てサービスの柔軟性、支援が必要な家庭への取組、仕事と家庭の両立などへのご意見を頂きました。  
また、前回会議の欠席委員から、前回テーマに関するご意見を頂いております。机上配付資料をご覧ください。委員より、何か補足等ありますか。
- 【委 員】 私がお伝えしたいことは2点あります。1点目がコミュニティの大切さ、2点目が情報発信の工夫についてです。資料に詳細を記載しておりますので、前者についてのみ補足します。  
コロナ禍での子育ては非常に孤独でしたが、少しずつ以前のようなライフスタイルに戻りつつあります。このタイミングを捉え、子育て世代の横のつながりを促し、助け合えるご近所さんや知り合いを増やしていくことが、子育てにおいて非常に大切だと思います。そのためには、例えば区で「練馬を都内で子育てしやすいまちナンバーワンに」といった大きなビジョンを掲げていただきたいと思います。また、子ども・子育て世代を区全体でサポートしようというマインドセットを示していただきたいと思います。どうしていいかわからない、勇気がなくて一歩踏み出せないという方々のために、背中を押す取組が必要だと感じています。  
例えば、普段知らない人に話しかけないのに、旅行先では、見知らぬ人との会話

が弾むことがありますよね。その理由は、観光客として来ている自分が他人にも認知されていて、観光客ならこう振る舞ってもよいだろう、相手も乗ってくれるだろうという前提があるからだと思います。練馬区での子育ても同様に、練馬は都内で子育てしやすいまちナンバーワンだから、子育てしている自分はこう振る舞ってもよいだろう、という心理的な安全性が少しでも保たれる環境づくりを身近なところからできるように、小さな子育てコミュニティが少しずつ広がり、子育て世代の背中を押すような区民運動ができると良いと思っています。その音頭を行政にとっていただければありがたいです。

【会 長】 補足の説明をありがとうございました。事務局には前回の意見に加えて、ただいまの意見も今後の参考としていただければと思います。

それでは、続いて、今回のテーマに入ります。今回のテーマは「妊娠・出産期～在宅子育て期の子どもと子育て家庭に大切と思うこと」です。テーマについて、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 (テーマについて説明)

【会 長】 委員の皆様が地域の子ども・子育てに関わる中で、お考えになっていること、感じていることなどをお聞かせいただければと思います。

【委 員】 先ほどの委員の意見に私も同感です。日本は災害が多いことなどを考えると、住民同士のコミュニティづくりが大事です。特に初めての妊娠・出産で大変不安に思っている方は、コミュニティの中で近い立場にいる1年前、2年前に出産されたお母さんの話を聞くことが、一番の安心につながるのではないかと思います。

難しいのは、預けたり預けられたり、あるいは子どもと一緒に遊ばせていた時に、不慮の事故や怪我などがあった起こった場合の対応です。コミュニティで生じた事故等について、区が支援するような公助の仕組みが大事ではないかと思いますので、ご検討いただきたいです。

【委 員】 私が大切だと思うことは、母親が自分自身を大切にできることです。私は現在育児中で、1歳と4歳の子がいます。夫が仕事の日私が発熱をした時は、夫が急遽仕事を休み子どもを看てくれたため、病院に行くことができました。病院はとても混んでおり、子どもを連れて行くのは到底無理だと改めて実感しました。また、体の不調があった時は実母に来てもらいました。私は幸運にも実家が近く、夫が仕事を休める状況であったため、自分の体を大切にすることができました。しかし、このような状況にないお母さんも非常に多いです。仕事には代わりの人がいても、子育てには代わりがなかなかいないことは、本当に怖いと感じました。

そこで、近所の人とのつながりや横のつながりは、大きな解決の糸口ではないかと改めて思いながら他の委員の意見を聞いていました。もし、実母や夫が助けてくれなかったら、自分自身の体調不良を我慢しながら育児をするしかない状況だったと思います。このような緊急時のサービスは、民間でもなかなか無いと思います。ベビーシッターなどのサービスは、数日前の面談や事前登録が必要だと思います。母親がしんどい時に、しんどいと言える子育て環境があるといいと思います。

私の友人は体調が悪く寝ていた時に、子どもが階段から落ちて救急車を呼んだことがあります。母親だけで子どもを見なければいけない状況は、とても危険な状況

だと改めて感じました。また、3人の子育てをしている友人は、乳がんの経過観察中に育児が忙しく健診に行けず、がんのステージが上がってしまい、手術をしなければならない状況になりました。30代、40代の女性は様々な病気のリスクがあります。日々、お母さんが自分の体を大切にできるよう、健康診断などの際に、託児サービスやサポートがあれば良いと感じました。

【委員】 先ほどの委員の意見は、3児の母として共感するところが多かったです。私からは3点の意見を挙げたいと思います。

1点目は、保育所の使い勝手の良さを全ての家庭に向けて展開して欲しいです。待機児童問題が落ち着いてきた今だからこそ、このような提案もできると思います。私には、認可外保育園に通っている子がいます。少なくとも今年度の施策の中では、認可保育園に入園出来ずに認証や認可外の保育園に入園した場合は、区で提供されている休日保育や、年末保育が対象外になり使えません。親の就労や疾病などで別のところに急遽預けたい場合も、保育園によっては対象外になってしまうことがあります。また、主婦のお母さんたちの中には、就労していないと子どもが保育園に行けないと思込んでいる方が意外に多いです。0～2歳の間は、働いていないから保育園に預けることができないと思っている方もいます。広い目を見た時に、保育園は決して保育に欠ける子どものためだけの施設ではないはずです。保育園の使い勝手の良さを区もアピールして、様々な子どもたちが等しく保育を受けられるようになって欲しいと思います。

2つ目は、育児支援ヘルパーの使い勝手の改善です。この事業の利用は、妊婦、もしくは産後の場合は母親とその子どもと一緒にいることが条件です。しかし、中にはハイリスク妊娠などで入院を伴うケースもあります。そうすると、お母さんが入院で不在だから、育児支援ヘルパーを使えないという問題が起こってしまいます。これは、私の事例でもあります。また、産後も育児支援ヘルパーに家を片づけてもらい、自分自身もゆっくりしたいなどの複合的な利用を希望する場合に、お母さんと子どもと一緒にいなければならないという条件から、子どもを預けて、その間にヘルパーさんに来てもらうという利用の仕方ができません。心身の健康面から、1人になりたい時期もあると思います。必ずしも子どもと密接にいる条件が必要かは、議論の余地があると思います。

3つ目に、私はすごく評価しているところですが、練馬区は育児相談システムが充実していると思っています。来庁しての相談や電話での相談も可能です。育児は、妊娠期を含めて長く、複数の子どもがいると悩みもその分多いです。相談したいけれどどこに相談していいかわからない、誰に相談していいかわからない時に、すぐにリーチアウトできる場所が区内にあります。私は区民ですが、このような相談場所があることを知らず、区外の別の場所から聞いて知りました。育児の相談機会があることをもっと広報するなど、ぜひ家庭に向けて発信し広めて欲しいです。

【委員】 先ほど委員から、保育園に対する要望がありました。非常に貴重なご意見だと思います。それに対して、園を運営している立場からお話します。

1つ目は、認可外保育施設では年末保育に預けられないなどの問題についてです。これは区で検討していただきたいと思います。私立認可保育所でも、年末保育を実

施している園と、実施していない園があります。私の園では年末保育を行っていません。その理由は、働く保育士が暦以外で唯一連続して休めるのが、12月28日から1月3日までしかないためです。保育士にも家庭やそれぞれの立場があります。年末年始は家族とのコミュニケーションや個人的に出かけたり有意義に使ってもらいたいと思っています。

そういう意味で、もっと社会全体にゆとりが必要ではないかと思います。どうしても仕事をしなければならない方がいることは、当然理解しています。しかし、子どもが小さければ休みがとれるような環境づくりが、社会として非常に大事だと考えています。実際に保育園には、時間がないのか自転車の後ろに乗ってパンを食べながら登園する子どももいます。そういう姿を見ていると、もう少し時間に余裕があればと思います。子どもが小さい時に、大事な時間を共有できることが親子のありべき姿ではないかと思っています。

子育ては確かに大変です。ねりま子育て応援ハンドブックの冒頭には「子どもは、練馬の未来を拓く宝です。」という区長の言葉が掲載されています。その宝と同じ時間を共有することで大変なこともあると思いますが、それが喜びに変わるような社会ができていけば良いと思います。私立保育園協会では、一時保育やこどもカフェなど様々なサービスを積極的に行っている園長先生が多く、将来的により良くなっていくと期待していますが、このような現状があることをお話しました。

**【事務局】** 休日保育、年末保育のご意見を頂きました。共働きや日曜日に働いている方が増えていることについて、区としても問題意識を持っているところです。今年度、休日保育は、区が利用調整をする認可保育園と、地域型保育のみで実施しておりました。委員と同じ問題意識でありましたので、制度を見直し、来年4月からは認証保育所や練馬こども園に通っている方も、延長保育をご利用いただけます。

また、区では年末保育を2日間実施していますが、職員体制の確保も含め様々な課題があります。現在検討しているところであります。ご意見頂きありがとうございます。

**【委員】** 海外では、クリスマス前から保育園や学校が休みの場合があります。その場合、保護者は働きながら一時的に預けられる施設に子どもを預けます。また、一時期は祖父母の家に行って、また違う時期は親戚の家に行ってという風に子どもがキャンプのように転々としながら、家族やご近所さん、お友達同士で分散して面倒を見ているような工夫をしている例もあります。子育て世代は余裕がない部分もあると思いますが、広く人の手を借りて子どもの面倒を見ることで、保育士の負担等を減らすことができると思います。社会全体でケアできれば良いと、委員の皆さんの意見を聞いて思いました。

次に、妊娠・出産期、在宅子育て期の子どものケアについてです。1人目と2人目以降を出産する時とで、自分自身困ったことが違いました。1人目の時は、全てが初めてなので常に戸惑っている状況です。父親も、母親の体調や心理的な変化が分からないことが多いです。1人目の出産時は、お母さんの心身のケアに力点を置いた行政サービスが必要だと思います。区の施策の1つに、こんにちは赤ちゃん訪問という、生後間もない赤ちゃんを助産師が訪問する事業があります。その後は、1

か月健診、4～5か月健診と検診の間が空いてしまいます。その時に、お母さんは不安になりがちです。誰に相談すればいいのか分からず、インターネットで調べると、様々な情報が出てきて、何が正しいのか全然分からず、どんどん孤独になり不安になっていくことが、1人目の子育てでは印象的でした。

例えば、板橋区ではチャット形式で助産師や、看護師、小児科医に気軽に相談ができるサービスがあったと思います。おそらく7割程度はチャットボットが返信していたと思いますが、それだけでも安心できる部分がありました。直接コミュニケーションが必要な場合は、助産師や小児科医に電話やテレビ電話、オンラインでつないでもらえるサービスもありました。区のリソースを使うことも大事だと思いますが、民間事業者に委託できる部分は委託し、効率よく進めることで区民のアクセスを容易にすることも非常に大切だと思います。

2人目以降の出産では、きょうだいのケアとそれを支えようと頑張る夫への心配で正直頭がいっぱいでした。保育園に上の子を預かってもらうだけでも本当にありがたかったです。しかし、保育園や幼稚園などに通っていない小さな子がいて、赤ちゃんの世話だけでなく、きょうだい児の世話もして気持ち的にもいっぱいいっぱいというお母さんもいます。例えば、就労の有無に関わらず母の産休に当たる期間の幼稚園預かりを無償化したり、幼稚園にまだ通っていないきょうだい児を、保育園等の一時預かりでもっと預かりやすくするような、産前産後のお母さんへのケアも行っていたらと、非常に嬉しいです。

一時預かりについて、私は乳児院を利用したことがあり、すごく良いところでした。しかし、中野区にあるので遠いです。理想は、例えば練馬区内4地区に一つずつ一時預かり施設があるなど、近くに気軽に預けることができる場所があると助かります。先ほども意見がありましたが、緊急時や産後に預けたいというニーズは一定以上あると思います。

また、私が3人目の出産時に頂いた出産祝いで1番嬉しかったものは、20個入りの冷凍スープセットでした。産前産後に食事を作るのは一仕事なので、スープを電子レンジで温めれば、ご飯と合わせて1食分食べることができて便利でした。出産・子育て応援事業では、カタログギフトのように10万円や、5万円分、自分の好きなものを頼むことができ、非常に助かっていますが、子育て中は、自分と子どものことで頭がいっぱいなので、冷凍など手軽に食べられるものをカタログの中に入れてもらえると、非常にありがたいです。現在、冷凍食品だけでなく、作り置き弁当のサブスクなど、民間には様々なサービスがあります。家事支援サービスはもう既にカタログギフトに入っていますが、簡単に栄養のあるものが、自分も子どもも取れるというオプションがあると、第二子以降を出産するお母さんやお父さんたちにとっても役立つ支援になると思います。

【委員】

意見交換の中で、共助について1番共感しました。行政に頼り過ぎるのではなく、社会全体で助け合い、共に作り上げていく環境をつくるのが大切だと思います。年末年始の保育に関しても、会社側、企業側の環境整備も必要だと思います。住民も一緒になって区全体で子育てしやすいまちになるように、この会議も生かしていければ良いと思います。

意見交換の中でコミュニティについて話がありましたが、練馬区内にお母さん同士のコミュニティは結構あると思います。子育てしながらも、何かやりたいというつながりや、子どもがいながらできる仕事をやろうというつながりなど、たくさんコミュニティがあります。私もコミュニティに1年前ぐらいから参加していて、そこで情報を入手することができるようになりました。

私は、2人の子を育てています。1人目の時はコミュニティに一切所属しておらず、子育てに関する情報があまり入って来なかったため、区の事業を全然活用できませんでした。2人目の時は、コミュニティに所属して同世代の子どもを育てるお母さんにつながることができ、情報を得ることができるようになりました。そのような方たちと一緒に、区全体で子育てしやすいまちをつくってほしいと思い、この会議に参加しています。このような思いを持つお母さんは多いと思います。行政には、個々に分かれたコミュニティをまとめるサポートや、行政とお母さんのコミュニティをつなぐサポート役をつくるなどの後押しをしていただければ、情報発信もスムーズになり、子育てしやすいまちづくりができるのではないかと思います。

【委員】 皆様からコミュニティや産後のサポートのお話がありましたので、併せてご意見いたします。

私も、コミュニティ、公助、共助の部分に非常に共感します。地域での助け合いも必要です。先ほど、お母さん同士のコミュニティのお話がありましたが、お父さん同士のコミュニティは意外と無く、つくろうにもなかなか一歩を踏み出せない部分があると思っています。私も何度か子どもとびよびよに行きましたが、よく一緒に遊んでいる子どもと知らず、家に帰ってから事実を知ることがありました。このような場合に、現場で一言声をかけて頂けるような後押しがあると、お父さん同士もコミュニケーションがとれると思います。

お父さんお母さんのコミュニティができると、口コミでの情報交換に繋がります。口コミには実際に子育てサービスを利用してみてどうだったか、という生の声を聞けるという点で安心感があると思いますので、より練馬区の子育てサービスの周知、活用につながるのではないのでしょうか。ですので、行政にはコミュニティ作りの後押しやきっかけ作りをしていただくと非常に有り難く思います。

加えて、緊急時のサポートについてです。実際に、一時預かりのサービスを利用しようとした際、予約開始直後に空きがなくなったということがありました。実際にどれだけ予約ができないかなどのリアルな意見等も、ぜひ聞いていただければと思います。

【委員】 私は、児童養護施設を運営しています。委員のお話を聞きくと、お母さんが1人で頑張っているため、一時預かりや様々な制度を必要と感じました。現在、男性も育児休業を取得するよう働きかけがされています。しかし、現実的には、男性の育児休業へのハードルは高いのではないかと思います。

私の施設には職員が50人ほどいて、毎年、2人程度は産休や育休をとっています。最近では男性も育児休業をとるようになりました。今年も、男性1人が1年間育児休業を取得しています。夫婦でしっかり子どもを育てた後、職場に復帰していただき長く勤めていただければ、それに越したことはないと思っています。ただ、一番大

変なのは、男女ともに育児休業や産休を取得する職員が増えたことで、欠員状態となりその補充が難しいことです。年度途中で採用しなければなりません、途中採用は非常に難しいです。残っている人で何とか頑張ろうという雰囲気をつくるために、随分時間がかかりました。まずは家庭で子どもを育てることが大事で、子どもや家族が病気になった場合などに育児の応援を頼むことが必要だと思います。家庭の中で預ける親戚やきょうだいがいないという状況で、まずは夫婦で育児休業などを活用し、子どもをしっかりと育てていただくということが大切だと思っています。

そこで、ひとり親家庭の場合です。子育てスタート応援券は利用できる回数が少ないので、もう少し工夫していただき、ひとり親家庭で苦労されている方への支援を充実できると良いと思います。

【委員】 私は民生委員で主任児童委員をしています。主任児童委員は、0歳～18歳までの子どもに特化した民生委員です。地域に必ず2名の主任児童委員がいます。先ほど、こんにちは赤ちゃん訪問から4か月健診までの間が空いてしまうという意見がありましたが、誰かに相談したい、ちょっとだけ来てほしいなどの場合に、ぜひ主任児童委員を使ってください。ボランティアですが、子育ての経験があり、勉強会や施設訪問など様々なスキルを高めるよう努力しています。主任児童委員がこんにちは赤ちゃん訪問から4か月健診までの隙間を埋められるかと思っています。実際に私は、特定妊婦の方の支援を行っています。主任児童委員がいるということ、ぜひ知っていただければと思います。

【委員】 多子世帯の母として、リアルなお話ができればと思います。

私は3回出産しましたので3回産育休を取得しましたが、その際に会社都合でリストラされるなどの経験をしました。練馬区には多種多様な職種の方が様々な働き方をされていると思います。誰もが安全に安心して産育休を取得して復帰できるかという、現実はどうとも限りません。

また、夫は育休を1回もとることはできませんでした。私の場合は5年ごとに出産していたので、それなりに時間的なスパンは空いていました。一番下の子の時は、既に男性の育休が推進されていた時代でした。しかし現実には厳しく、男性が何か月も休むとボーナス査定やその年の給与に響く、あるいは仕事の中での様々な調整の難しさから、結局夫は育休をとることができませんでした。そうすると結局、ワンオペ育児になってしまいます。ワンオペ育児は、産後鬱や育児ノイローゼなどにつながりやすいです。子が1人の時も大変でしたが、複数子がいる場合のワンオペ育児は、苛酷な体力勝負になります。

このように自分の希望に即さない状況が起こった時に、公助や行政のサポートは本当にありがたいです。例えば、認可保育所に入園は出来なかったけれど、認可外保育施設には入園できたということで救われたという現実もありました。一時預かりやファミリーサポート、学童も同じです。共助も公助もバランスをとり、子どもたち、そして親が等しく救われるような社会になってほしいと切に願っています。

【委員】 皆様から、様々な切羽詰まったお話を伺いました。私は幼稚園の立場から述べます。幼稚園や保育園は、1人子どもを預かると2～3年間その子どもの独自性を見

据えながら、どのように育てていくか計画を立て、日々、一人ひとりを見ていきます。また、1クラス30人であれば、30人の子どもたちのネットワークを築き上げていかなければなりません。継続的に指導計画を立てて育てていく過程と、一時保育は、実はマッチしていません。一時保育は公助の問題だと思います。我々が一時保育で預かることは構いませんが、人材不足の中で今はとてもできません。30、40人の子どもを4月から卒園までずっと育てていく課程とは別の課程として、強力な補助がない限り、一時保育は不可能だと思います。ぜひ、それは考えていただきたいです。

【委員】 私は学童保育所を運営していますが、ひとり親家庭にまず目を向けなければならぬと思っています。多様性の時代ですので、現在は多くのひとり親家庭があります。先ほども意見にあったとおり、様々な課程を考えただけでは、預かりにくいというのも本音です。一方で、預ける側としては事情があってこの日だけでも預けたい、ということが一番切なる思いなのではないかと思います。まずは一番危機的な部分を守る区政であるべきではないかと思います。

子育ては安全が最優先だと思うので、ひとり親家庭が守られるようなコミュニティも必要だと思います。ひとり親家庭は、両親が揃っているコミュニティには入りづらいとよく聞きます。ひとり親家庭同士は話やすく仲よくなることがあるため、そういった視点があっても良いと思います。

最後に、働いているお母さんから、産後は体に負担がかかるためできれば区で子どもを預かってもらい、体をケアしてくれる整体を受けられるような券を配ってくれと嬉しいということをお聞きしました。

【委員】 私は娘が2人いますが、娘の子育ての時に自分自身がそこまでサポートしていたかなと、改めて思いました。両方の親が近くに住んでおり、まだ助かっていたのかもしれません。

昨年、私の娘に第一子が生まれまして、年子で9月に第二子が生まれましたが、一番のサポートは配偶者だと思いました。先ほど育休の話がありましたが、第二子が生まれた時は、約3週間ずっと夫が付きっきりでした。最初は、私が子どもを預かることになっていましたが、やはり体力的な問題もあります。今、1歳の孫はつかまり立ちしたり、ソファの上を乗り越えていこうとします。ですから、コミュニティの話もありましたが、長屋のような状態が一番いいのではないかと思います。

【委員】 先ほどゆとりある育児や、働くお母さんたちについてのお話がありました。

私は1人目の子の時、働きながら育児をしており本当に朝からずっと謝っているような状態だったことを思い出しました。朝はまず菓子パンを食べさせて、子どもにごめんねと言いながら慌てて着替えさせ、幼稚園まで自転車で送り、ぎりぎり到着して、先生にすみませんと言って子どもを預けます。その後、会社に着き早く帰ってすみませんと言って帰ります。帰ってから、家に着いた瞬間から食事やお風呂、寝かしつけをしていました。朝から、ずっと色々な人に「すみません」と言いながら生きている状況のお母さんはたくさんいると思います。でも、「すみません」は、本当にありがとうございますという意味で、保育園や地域、様々な人からサポートを受けて子育てができているということでもあると思います。

このような状況の中で、こんなことまでして働く必要があるのかと、何度も思い、一体これがあと何年続くのかとふと思ひながら、ぎりぎりのところで生活しています。外から見たら、何でそんなことまでして働くのかと思われると思います。私は、働いている中でも自分が叶えたい夢があり、子どもにもその背中を見せたいという思いがあります。お金だけのために働いているわけではないと思っています。職場から帰ってきた時に、練馬区に帰ってきてほっとできるようなまちであつたらいいなと思います。私は、本当にいいまちに引っ越してきたと感じていて、安心できるような子育てができるまちであつて欲しいと改めて感じました。

【事務局】

様々な貴重なご意見を頂きありがとうございます。主に産前産後の母子保健業務全般を担っておりますので、育児相談が充実しているとのお話を頂き大変感謝しております。ご意見の中にもありましたが、こんにちは赤ちゃん訪問の後、次の健診まで時間が空いていて、そこで孤立感を抱く方や心身の不調を訴える方が多い状況があります。この部分の問題意識を区も持っています。例えば、産後2、3か月頃に心身の不調を訴える方が非常に多いです。現在検討中ですが、来年度からそのような場合に、練馬区は6か所の保健相談所がありますので、地域の保健相談所として、相談やサポートができないかを考えています。また、ご自宅から保健相談所に相談に行くだけでもなかなか負担になるかと思ひます。そこで、区でも9月からチャットボットを導入しております。AIで対応することから、具体的な相談にどこまで応じられるかが課題です。

いずれにしても、このような事業に取り組んでいるものの、周知にはまだ不十分な点があると思っています。今回頂いたご意見を踏まえ、積極的にPRをして、しっかりと情報を届けることができるような取組を考えていければと思っています。

【会長】

では、そろそろ時間も迫ってまいりましたので、ここで副会長からもご意見を頂戴したいと思います。

【副会長】

様々なご意見をありがとうございました。私も3人の子どもがいて、練馬区で3人とも育てております。親同士のつながりという面では、私はびよびよやお母さん同士がつながり合うようなサークルにだいぶお世話になりました。その中には、夫が単身赴任でずっと不在であるとか、家庭に様々なものを背負われている方もおられました。お母さんたちのネットワークができて、同じように、幼稚園に上がって、その後も小学校、中学校、高校と場所は変わりますが、つながりがあって、本当に助けていただきました。稀にですが、お互いに預けることなどもありました。私の家庭は偶然つながることができたから良かったですが、そうでない場合には誰が繋ぐのかという問題があります。民生委員など児童のことを見ている方も地域にいますし、顔が見える関係をどのようにつくるのが、つながりを作ることだと思ひます。どうしてもプライバシーの問題などからハードルが大きいのかなというふうに思ひますが、理解して、受け止めてくれる誰かがどこかにいれば、非常に心強いのではないかと思ひます。

子どもを幼稚園に送っていくのが私の役割でした。その際に、できるだけ早く出て、子どもと公園で30分遊んでから幼稚園に連れて行くという生活をしていました。一方で、そういうことをしているお父さんはそう多くはありませんでした。男性も

仕事で忙しい方が多く、なかなか難しいと思います。お父さんのつながりをどうしていくのかについての取組が必要だと思います。例えば自分自身の体験で、子どもがお父さん同士をつないでくれることもあります。特にバーベキューなどでは、お父さんが活躍できる場面などがあれば活躍できます。男性としては、お母さんと子どもがしっかりつながっている中に、横から入りづらいということがデータでも出ています。そういった面でも、ぜひ「ねりま子育て応援ハンドブック」のほかに、「父親ハンドブック」のようなものがあったら良いと思うところです。

私は、子が3、4か月の際や大変な時期にアタッチメントをこちらに付けました。私自身にアタッチメントを作ったうえで、子どもと妻は時間を重ねることで、アタッチメントを作りました。そのような面もありますので、夫が子どもにとってのアタッチメントの対象になっていくことなども、今日の意見交換の中で、意見として出てきて良いのかなと思いました。

ひとり親家庭についてのご意見もありました。また、水面下に隠れているニーズとして、家庭に居場所がなくて誰にも頼れない、誰も信用できない、社会の中でつながる人がいないと思っている方々もいます。例えば、子育ての負担や仕事をすることの難しさ、ひとり親家庭のお母さん方だからこそ、社会の課題を一番教えてくださる存在でもあります。加えて社会的養護など、ある程度課題が集中している方々に学ぶことは、サービスをつくる上では重要だと思っています。

つながりを持ち、責任を分かち合いながら子育てができるような緩やかなつながりができていければ良いと思います。

今日の意見交換は、行政の支援というお話もありましたが、それを地域でどうつくっていくのかというお話だったかと思っています。そういった意味で、ニーズ調査等について説明もありましたが、調査を解析、検討していく必要があると思いました。

【会長】 本日は非常に多くの貴重なご意見をいただきました。「つながる」という共通のキーワードもありました。1人の子どもが育っていくためには、多くの大人の手や社会の手が必要なことを確認できたと思います。

私は、子どもの視点で少しお話をしたいと思っています。子どもにとっても、親子の関係だけではなく、親以外の大人にも温かく見守られていることは、育つための重要な基盤になっていくと思っています。様々な大人の価値観に触れながら、子どもが豊かに育っていくようなコミュニティづくりが、これからは非常に大切だと思います。

また、コミュニティを作る際は、子育てに関わる人だけではなく、子育てをしていない大人が、妊婦に、子どもに、お母さんに、お父さんに関心を寄せられる区になっていくと良いと思いました。このようなコミュニティはつくりにくいと思いますが、子どもがいることはまちの中でも、地域の中でも、とても大事なことだと思います。そうしたコミュニティを、妊娠期からうまくつくっていただけるようなヒントが、本日の意見の中にもたくさん隠されているように思いました。引き続き、この会議で、様々な視点から検討をしていければと思います。皆様、本日は貴重なご意見を本当にありがとうございました。

最後に、区から連絡事項をお願いしたいと思います。

【事務局】 本日は、皆様から様々なご意見を頂き、ありがとうございました。頂いたご意見につきましては、今後の第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、参考とさせていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

次回の会議について、来年の3月の開催を予定しています。

【会 長】 以上で、本日の子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。